

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「目に見えないものを、目に見える形にしよう」

【発達がユニークな子どもの特徴】

○目に見えないものに意味を見出すことが苦手

目で見て確認できないものを理解することが苦手である。目に見えない抽象的な言葉の意味、相手の表情や場の状況を読み取るのに時間がかかる。

○新しい変化に対応することが苦手

過去の経験を基に、これからどんなことが起こるかを予測することが苦手である。予期しないことへの不安が大きく、イレギュラーなことが起きると不安定になる。

○はじめとおわりを理解することが苦手

見えない時間の流れを理解することが苦手である。今までやっていたことを「おわり」にすることが難しく、言葉だけで「おわり」と言われると混乱する。

○何をしたいのか分からない状況に身をおくことが苦手（自由が不自由になる）

自由時間が苦手である。「好きなことをしていいよ」「自由に遊んでいいよ」と言われても、どう過ごせばよいのか分からず不安になる。

【情報を見えるように伝える】

1 場所（空間）（余分な刺激をなくし、その場所で何を行うのか分かると安心する）

どの空間が何をする場所なのかを明確にする。イライラしやすい子どもは落ち着く場所があると不安を減らせる。教室で給食を食べるとき、机にランチョンマットを敷くことで、気持ちの切り替えにつながった例がある。

2 時間と予告（はじめとおわり、変更理由が分かると我慢する力が身に付く）

1日の生活や授業の流れが見える化し、「次に何が起きるか」を分かるように伝える。イレギュラーなことが起こりそうなときは、早めに予告すると気持ちをコントロールできる。

3 活動の手順（活動に見通しが立つと自信をもって取り組める）

「何を、どれだけ、どの順番で、終わったらどうするか」を明示する。言葉は消えるので手順を示すことは有効であり、子どもをほめる回数を増やすことにもなる。

4 視覚化（言葉の理解力やワーキングメモリの弱さをカバーする）

相手の気持ちや場の状況、暗黙のルール等の見えないものを、文字（吹き出し、フローチャート）、絵カード、4コマ漫画で提示し、隙間を埋めて意味をもたせる。

5 選択肢（自己選択をの経験を重ねて主体的な行動につなげる）

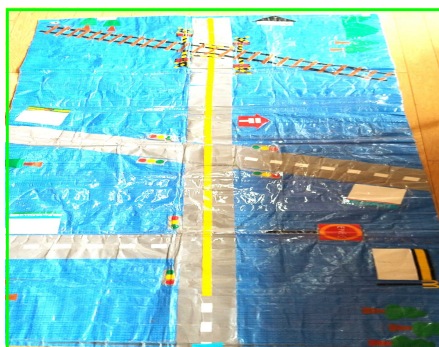
何をしたいか分からない時間を減らすために、2つか3つの選択肢を用意し、自分で「好き」「自由」を見付けられるようにする。



とれたて直送便



【あっ、見付けた！】



左の写真は、ある園の先生がブルーシートを利用して能代市をイメージして作った路線図です。子どもたちは「ガタンゴトン」「ピーポーピーポー」と言いながら、楽しそうに手作りの電車や車を走らせていました。ブルーシートはみんなでお弁当を食べるときに使うものだと思っていましたが、アイデア次第でいろいろなものに変身することを知りました。子どもの知的好奇心をくすぐる教材は、遊びの幅を広げ、人と楽しく関わる入口にもなります。